

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555番地の1		
自己評価作成日	平成27年 1 月 26 日	評価結果市町村受理日	平成27年4月8日

ぬくもりのある落ち着いた雰囲気、生活して頂きたいとの思いから、県産木材を使用し改築した施設です。近くの小学校との交流も続いていますし、特養、小規模多機能と併設しており、行事や色々な取り組みを協力して行っています。養老鉄道の駅前でもあり、面会時にも便利だとの声を頂いております。橙グループにおいては、折り紙等の取り組みや、できるだけ外出の機会を増やしていけるよう努めています。来年度はバス旅行も計画しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192500029-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192500029-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム・小規模多機能・特別養護老人施設が隣接し相互の連携体制があり安心できる。事業所合同での、りんどう祭りで地域住民とふれあう機会を作ったり、他事業所と家族の勉強会を開催したりしている。養老鉄道停車駅前で面会が便利で利用する人もある。医療面では協力医と連携を図り、重度化から終末期の方針を家族と話し合いながら支援している。職員は利用者の希望や意見を取り入れ自立に繋がる介護計画を作成している。代表者や管理者は、職員の意見を聞く機会を設け、又、研修の受講を確保し、資格取得にも積極的で、質の向上に取り組んでいる。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年3月13日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念I:</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:夢・感動・笑空間 開設前の事前研修にてスタッフ全員で理念を掲げ自分達の目標とすべき姿を共有している	理念について会議等で話し合っている。利用者が笑顔でゆったり生活できるよう、相手の立場になって実践をしているか、管理者は現場に入り確認している。職員には理念が、概念に留まり具体的理解に違いが見られる。	理念について、職員と話し合う機会を設け、分かりやすく、実践につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れやりんどう祭りを開催神戸北小との交流会や 毎週買い物に出かけたり、希望があれば図書館にも出掛けている。又近所の喫茶店に出掛け地域の繋がりが保てている	公民館の清掃や地域の避難訓練に参加している。小学校体育館のカギの管理をすることで地域とつながりを持っている。事業所行事を回覧板で知らせ参加をお願いし、喫茶店や買い物時に地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他のグループホームと共同で、家族向けの「認知症を支える」講座を開催し、理解を深めてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で状況の報告や話し合いを行い家族様や地域の方との意見などを聞き、地域交流をL・G・Hでのサービス向上に繋げているよう努めている	併設事業所合同で開催している。会議でメンバーから、地域の消防団員に災害時の協力依頼の意見があり検討している。独自の会議議事録はあるが、利用者の参加や、議事録が家族に公開されていない。	利用者の参加と、運営規定に基づき記録を公開し、多くの意見を貰いながら、サービス向上に活かされたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課へも相談し、意見を頂いている	入居者の現状報告や書類提出、運営上の問題を相談しながら、関係継続に取り組んでいる。利用者の行方不明時の対応に色々な提案を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての話し合いを定期的に行い普通の介護を振り返りながら、言葉の拘束についても常に意識して業務に就いている。現在身体拘束は行っていない。	身体拘束の弊害を事業所内部研修で確認し共有している。言葉の抑制をしないことを、毎月話し合いをしている。ヒヤリハットの報告を分析し転倒対策も拘束せず見守りを意識し、話し合いながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で防止に努めている。又入浴時にはボディチェックをし、早期発見に努めている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修に参加し、スタッフに考える機会をつくっている。利用者の思いを大切にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行い利用後も聞ける環境がある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族参加してもらい意見や指導を頂いている。ご意見箱の設置や家族様との面談の中で聞いている	家族の面会時には必ず声かけし意見をたずねている。学習療法を取り入れ、家族手作りのリハビリ体操の道具を使用し、体力作りをしている。「足元が寒いのでは・・・」の意見から見直しの対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会の話し合いの場で意見や提案を議題に上げ、汲み取るようにしている。年2回自己評価時、個別面談を行い意見を聴き、対応している	職員からも、「共有空間の足下が寒い」の意見を受け、温風ヒーターや窓枠など寒さ対策を施した。書面での自己評価や面談で職員の状態を把握している。職員の希望を取り入れ、内・外部研修に参加させ、資格取得にも協力的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、実績や勤務状況を反映し、内部・外部研修へはできるだけ参加しスタッフのモチベーションが上がるように働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成方法を学び、個々にあった指導を行っている。人事考課制度をうまく使い、職員育成を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前には近隣のG・Hから指導を頂いたり、他のグループホームと協働で、家族向けの「認知症を支える」講座を開催した。職員同士の勉強会にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント時に、本人と話をしながら、不安や要望を理解し、聞く姿勢を大切にしながら安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族との面談時に情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話を始め、食事の手伝い・洗濯・たみ・掃除・居室内の片付け・個々にあった暮らしの手伝いをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え施設内での生活の様子を知って頂けるようにしている。外出・外泊が出来る支援を考え実行し、家族との関係が継続できている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーへ行き、買い物をしている。顔見知りの方にお会いすることもある。知人の方の面会が、こまめにある方もいます	行事や散歩、買い物時に出会える機会を設け交流している。馴染みの人の面会には本人のことを教えてもらったり、継続した面会をお願いしている。テレビや思い出話から、もう一度行きたい所を聞き、実行できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を、日常会話等から理解し、座席等に配慮している。会話の難しい方には、職員が間に入ったり、書いて伝える等の橋渡しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所された家族様が、りんどう祭りに写真と共に参加して頂けた。年に一度の亡くなられた方の供養祭を法人合同で行い、参加して頂いた		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活に必要な時には、家族様への働きかけ等も考えている。笑顔になれるポイントを身につける。	日常の会話から、家に帰りたい意向を聞くことがあり、家族と相談している。家での暮らしぶりの話から、家族に野菜苗を貰い、畑仕事を一緒に楽しみ、ブロッコリー、水菜、イチゴを収穫し食卓に並べ希望をかなえている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや昔のお話を聞き、ご本人の事を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意志が伝えられる人には、望む生活より少し活動的にして頂けるように支援している。伝えることが難しい人には、一緒に作業する事から始め、今出来ることを維持出来るように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス、グループ会での話し合いの中で、意見交換し検討している	介護記録・申し送りノート、家族・本人の意向、医師の意見を基に介護計画を全職員で検討している。家族や本人の希望で、編み物や歩行訓練を組み込んだ計画としている。状態の変化にはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づきを個別記録に残し、申し送りノートを活用して、情報を共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理栄養士の指導や助言を受けて、栄養面でのサポートを行っている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源までできてないが、家族から花の差し入れや手作りのリハビリ用品等の協力も得られている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や他科受診を上手く組み合わせ医療支援も行っている。かかりつけ医受診時には、情報提供している	かかりつけ医の選択は、家族の意向に合わせている。従来のかかりつけ医の受診には、家族や看護師が代行して本人の状況を共有できるよう、医師とは書類や口頭で情報交換をしながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな状況変化にも、看護師に報告し、Dr指示を仰ぎ、対応し、家族連絡を行い、適切な医療体制ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院の看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は看護師から経過を聞き、情報収集を行い、良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどのように迎えたいかを家族様を通して本人の意向を伺い看取りの説明も行い、希望には対応している。2名の方の看取りを行った	入居時に終末をどの様に過ごしたいか、本人・家族の希望を聞いている。事業所でできる事を状態に合わせて話し合い、医師と連携し対応している。職員には、看護師がその都度利用者の状況に合わせて指導しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や状態の変化等は、夜間もオンコール体制により、看護師に指示を仰ぐことができるようになっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、まず職員が避難経路を把握し、スムーズに避難出来るようにしている。地域との協力体制までには至っていない	消防署の指導で、避難訓練を併設事業所合同で実施している。又、単独で夜間想定・通報訓練を実施している。運営推進会議での意見を踏まえ、消防団員の災害時の協力依頼を薦めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接し方についてグループ会で話し合い実行できている。利用者間のトラブルにも早急に対応している	管理者は、ケアが馴れ合いにならないよう、丁寧な言葉使いで接するよう、日常職員に伝えている。職員同士も気づいた時に注意し合っている。言葉のもめ事も相手を傷つけない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から聞いたりした時は、希望に沿っている。入浴時の準備も服を選んで頂いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況や精神面を把握し、負担にならないように、本人のペースで生活して頂くように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは、本人が着ていた衣類を家族が持参され、気に入った物を自分で選んで着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、食事の盛り付け等を手伝っていただいている。献立の説明をし食べる意欲を引き出している	食事は本館から届けられる。車椅子から椅子に移動し、職員が献立を説明しながら、好みや味付けなど話題を引き出している。月1回「駅弁の日」、お好みバイキング、行事食、おやつ作りで楽しみを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、必要量が確保出来る様提供している。器や時間帯の工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で可能な方、声かけや見守りが必要な方、仕上げ磨きが必要な方、本人の力に応じて対応している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ対応で入所された方も日中は二人介助でトイレ対応できている。排泄感覚も戻ってきている。日中は全員の方がトイレ介助で対応できている	入居前の状態や尿意の有無を把握し、昼間はトイレに誘っている。夜間はポータブルを使用する利用者もいる。安易にオムツを使用しないケアで自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にヤクルトやヨーグルトを毎日摂取・時間を決め動く機会を増やしたり、腹部マッサージを行い便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、早く入りたい希望の方には、添えるようにしている。1対1の対応をしている	利用者の希望に沿えるよう、声かけ、対応している。一人ひとりの希望を受け入れ、湯温、季節の湯や、歌ったりして楽しめるようにしている。利用者の希望で、季節により入浴時間を変更する等対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせベッド、布団での対応を行っている。臀部剥離がある利用者の方は、午前・午後静養して頂いている。週に一度シーツ交換		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職から薬に関する説明を受けています。誤薬・飲み忘れがないように細心の注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、塗り絵など生活歴や嗜好に合わせて行ってもらっている。洗濯たたみや食器拭き食器洗い、テーブル拭き等役割を持って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は週1回の買い物のみ、気候の良い時は、散歩や図書館へ出かけたりしている。近所の喫茶店へ職員と一緒に出かけることもある。月に数回外泊したり家族と共にコンサートや地区の行事に参加される方もある	散歩コースを利用者の希望で別れて出かけている。買い物も希望者に合わせている。近隣の喫茶店や図書館に出かけ、馴染みの人と出会え楽しんでいる。事業所傍に停車駅があり電車に乗っての外出を計画している。	

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出掛けた際、利用者にお金を払ってもらう事もあります。基本個人のお金は事務所で預り、希望の物があれば購入しております。小銭を持っている方もあります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次はさせて頂いています。用件がある時には、職員に伝えられることが多いです		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除を行い、換気や温度管理には注意を払っている。季節感を感じられるように飾り付けも行っている	玄関を挟んで左右にユニットがあり、双方自由に往来できる。折り紙で作った雛飾りや、書物・遊具が置かれ好みの物が取り出せる。家族から苗をもらい季節の野菜や果物を作っている。掃除が行き届き、気になる臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身、座れる場所が1ヶ所しか無いという事にならないように、ソファや他の椅子に座れるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気毛布や湯たんぽなど自宅で使い慣れた物を使用してもらっている。自宅と同じような配置を心掛けている	自宅と同じように、タンスの上に人形・写真・経本を置いている。チラシを切って折り紙にするなど自分らしい居室作りをしている。外出用の靴、杖も使い勝手よく配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に障害物を置かないように気を付け、環境整備に努めている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555番地の1		
自己評価作成日	平成27年 1 月 26 日	評価結果市町村受理日	平成27年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192500029-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192500029-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぬくもりのある落ち着いた雰囲気、生活して頂きたいの思いから、県産木材を使用し改築した施設です。近くの小学校との交流も続いていますし、特養、小規模多機能と併設しており、行事や色々な取り組みを協力して行っています。養老鉄道の駅前でもあり、面会時にも便利だとの声を頂いております。葵グループにおいては、おやつ作りに取り組んで、喜んでいただけている為、レポートリーと回数を増やしていきたい。来年度はバス旅行も計画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:夢・感動・笑空間 開設前の事前研修にてスタッフ全員で理念を掲げ自分達の目標とすべき姿を共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れやりんどう祭りを開催 神戸北小との交流会や 毎週買い物に出かけたり、希望があれば図書館にも出掛けている。又近所の喫茶店に出掛け地域の繋がりが保っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他のグループホームと共同で、家族向けの「認知症を支える」講座を開催し、理解を深めてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で状況の報告や話し合いを行い家族様や地域の方との意見などを聞き、地域交流をL・G・Hでのサービス向上に繋げているよう努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課へも相談し、意見を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての話し合いを定期的に行い普段の介護を振り返りながら、言葉の拘束についても常に意識して業務に就いている。現在身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で防止に努めている。又入浴時にはボディチェックをし、早期発見に努めている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修に参加し、スタッフに考える機会をつくっている。利用者の思いを大切にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明を行い利用後も聞ける環境がある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族参加してもらい意見や指導を頂いている。ご意見箱の設置や家族様との面談の中で聞いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会の話し合いの場で意見や提案を議題に上げ、汲み取るようにしている。年2回自己評価時、個別面談を行い意見を聴き、対応している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、実績や勤務状況を反映し、内部・外部研修へはできるだけ参加しスタッフのモチベーションが上がるように働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成方法を学び、個々にあった指導を行っている。人事考課制度をうまく使い、職員育成を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前には近隣のG・Hから指導を頂いたり、他のグループホームと協働で、家族向けの「認知症を支える」講座を開催した。職員同士の勉強会にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント時に、本人と話をしながら、不安や要望を理解し、聞く姿勢を大切にしながら安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族との面談時に情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話を始め、食事の手伝い・洗濯・たみ・掃除・居室内の片付け・個々にあった暮らしの手伝いをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え施設内での生活の様子を知って頂けるようにしている。外出・外泊が出来る支援を考え実行し、家族との関係が継続できている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーへ行き、買い物をしている。顔見知りの方にお会いすることもある。知人の方の面会が、こまめにある方もいます		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を、日常会話等から理解し、座席等に配慮している。会話の難しい方には、職員が間に入ったり、書いて伝える等の橋渡しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為サービスが終了した方には病院へ面会に行ったり電話にて経過を聞くなどしている。退院後再度利用につながった人もいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活に必要な時には、家族様への働きかけ等も考えている。笑顔になれるポイントを身につける。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや昔のお話を聞き、ご本人の事を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意志が伝えられる人には、望む生活より少し活動的にして頂けるように支援している。伝えることが難しい人には、一緒に作業する事から始め、今出来ることを維持出来るように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス、グループ会での話し合いの中で、意見交換し検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づきを個別記録に残し、申し送りノートを活用して、情報を共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身元引受人が海外へ行っている間の対応を事前に話し合い、姉妹の人の協力で対応できている。個別に歩行訓練や編み物等りんどうで出来ることを行っている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源までできてないが、家族から花の差し入れや手作りのリハビリ用品等の協力も得て支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や他科受診を上手く組み合わせ医療支援も行っている。かかりつけ医受診時には、情報提供している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな状況変化にも、看護師に報告し、Dr指示を仰ぎ、家族連絡を行い、適切な医療体制ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院の看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は看護師から経過を聞き、情報収集を行い、良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどのように迎えたいかを家族様と本人の意向を伺い看取りの説明も行い、希望には対応している。1名の方の看取りを行った		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や状態の変化等は、夜間もオンコール体制により、看護師に指示を仰ぐことができるようになっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、まず職員が避難経路を把握し、スムーズに避難出来るようにしている。地域との協力体制までには至っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接し方についてグループ会で話し合い実行できている。利用者間のトラブルにも早急に対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から聞いたりした時は、希望に沿っている。入浴時の準備も服を選んで頂いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況や精神面を把握し、負担にならないように、本人のペースで生活して頂くように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは、本人が着ていた衣類を家族が持参され、気に入った物を自分で選んで着て頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、食事の盛り付け等を手伝っていただいている。献立の説明をし食べる意欲を引き出している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、必要量が確保出来る様提供している。器や時間帯の工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で可能な方、声かけや見守りが必要な方、仕上げ磨きが必要な方、本人の力に応じて対応している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ対応で入所された方も日中は二人介助でトイレ対応できている。排泄感覚も戻ってきている。日中は全員の方がトイレ介助で対応できている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にヤクルトやヨーグルトを毎日摂取・時間を決め動く機会を増やしたり、腹部マッサージを行い便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、早く入りたい希望の方には、添えるようにしている。I対Iの対応をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせベッド、布団での対応を行っている臀部剥離がある利用者の方は、午前・午後に静養して頂いている。週に一度シーツ交換		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職から薬に関する説明を受けています。誤薬・飲み忘れがないように細心の注意を払っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、塗り絵など生活歴や嗜好に合わせて行ってもらっている。洗濯たたみや食器拭き食器洗い、テーブル拭き等役割を持って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は週1回の買い物のみ、気候の良い時は、散歩や図書館へ出かけたりしている。近所の喫茶店へ職員と一緒に出かけることもある。家族と毎週喫茶店へ出掛ける方もいます		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出掛けた際、利用者にお金を払ってもらう事もあります。基本個人のお金は事務所で預り、希望の物があれば購入しております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次はさせて頂いています。用件がある時には、職員に伝えられることが多いです		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除を行い、換気や温度管理には注意を払っている。季節感を感じられるように飾り付けも行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身、座れる場所が1ヶ所しか無いという事にならないように、ソファや他の椅子に座れるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気毛布や湯たんぽなど自宅で使い慣れた物を使用してもらっている。自宅と同じような配置を心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に障害物を置かないように気を付け、環境整備に努めている		